

2022年度 帝京大学大学院公衆衛生学研究科 自己点検・自己評価

2022年10月吉日

2022年度自己点検・評価委員会

当研究科の教育活動等について、2022年8月18日開催の2022年度自己点検・評価委員会において本年度の自己点検・自己評価を行った。前年度から継続して検討している7項目と、昨年度に課題として挙げられた3項目について検討を行った。

2021年度の自己点検・自己評価

① 5つの基本専門領域の履修バランス

改善すべき課題：“教育課程は5つの基本専門領域を網羅しているものの、このうち疫学、生物統計学などの計量科学の必修単位数に比較し、健康行動科学、保健政策・医療管理学、産業環境保健学の必修単位数が少なく、5つの領域における履修のバランスを取ることが求められる。したがって、今後は、領域ごとに必修・選択必修の最低習得単位数を設定するなどの改善が望まれる。(大学基準協会. 帝京大学大学院公衆衛生学研究科公衆衛生学専攻に対する認証評価結果. 2021年3月26日)”

自己点検・評価および改善計画

2021年度から「必修科目が1単位のため、選択科目を少なくとも1科目以上履修することが望ましい」と履修要項に記載し、バランスの良い履修を学生へ促した。しかし、履修に関する教務課への問い合わせが多く、履修に関しての学生への周知の働きかけが不十分である可能性がある。バランスの取れた履修を推奨するため、専門職学位課程と博士後期課程それぞれ2年および3年かけて履修するサンプル「履修モデル」の作成を検討する。

② アドバイザリー・ボード構成員

改善すべき課題：“2019年度に設置した「教育課程連携協議会」(アドバイザリー・ボード)の構成員について、5名の構成員に介護老人福祉施設関係者を入れているものの、そのほかには当該専攻あるいは帝京大学医学部に関係するものであるため、法令上必要とされる「当該専門職大学院を置く大学の教員その他の職員以外の者」を参画させるよう、2021年度からの新たな委員選出において法令要件を満たすとともに、行政自治体や産業界等からの委員を加えることが求められる。(大学基準協会. 帝京大学大学院公衆衛生学研究科公衆衛生学専攻に対する認証評価結果. 2021年3月26日)”

自己点検・評価および改善計画

2020 年度より法令要件を満たす 5 名の構成員に変更しており、2021 年度教育課程連携協議会では行政関係者や産業界関係者が参加し、意見交換することができた。

③ 幅広い知見に触れる環境として総合大学としての資源を活用

改善すべき課題：“公衆衛生専門職に求められる幅広い知見に触れる環境として、充実した図書・情報検索の環境を整備し、同キャンパス内の他研究科との共同講義についても計画が進んでいるため、当該分野に関連が深い医療系の研究科等を保有する総合大学としての資源を活用し、学生の課題研究やキャリアパスに応じて他研究科の科目履修による単位習得を可能とするなど、さらなる取り組みに期待したい。(大学基準協会、帝京大学大学院公衆衛生学研究科公衆衛生学専攻に対する認証評価結果、2021 年 3 月 26 日)”

自己点検・評価および改善計画

2021 年度より他研究科の科目を自由科目として履修するオープンカリキュラム制度の検討を開始し、2022 年度より本制度を開始している。履修要項に本制度の説明を記載している。

④ 科目「課題研究」の指導内容の充実

改善すべき課題：“当該専攻では 2020 年度から課題研究の単位数を増加させ、これに伴い修了要件単位数を変更している。これについて、指導内容を充実させ従来よりも高いエフォートを教員・学生ともに求めることから実態に即して単位数を増加させたとしているが、修了要件単位数のうち 3 割近くを占めているため、養成する人材像や学位授与方針等にも照らして現状を検証し、その妥当性を検討することを強く求める。とりわけ、1 年間で修了するコースの学生は、実質 10 か月あまりで課題研究を含む修了要件単位数 (42 単位) に相当する学習時間を確保することが必要となるため、適切な学習時間・学習量の観点から妥当性を検討されたい。(大学基準協会、帝京大学大学院公衆衛生学研究科公衆衛生学専攻に対する認証評価結果、2021 年 3 月 26 日)”

自己点検・評価および改善計画

2021 年度も年間 5 回の発表、2 回の抄録提出と修士論文に相当する課題研究報告書の提出を求めており、12 単位に相当する学習時間・学習量が確保されている。

⑤ 入学定員の管理

改善すべき課題：“入学定員の未充足については、広報活動の強化や「ローリング・アドミッション (Rolling admission) 方式」の導入により改善されたが、近年は入学定員を大幅に上回る入学者を受け入れているため、教育の質を担保するうえで学生数の適正化の観点から、適切な定員管理を強く求める。(大学基準協会、帝京大学大学院公衆衛生学研究科公衆衛生学専攻に対する認証評価結果、2021 年 3 月 26 日)”

自己点検・評価および改善計画

2021 年度に定員増の申請を行い、2022 年度の入学定員を予定通り増やすことができた。各コー

スの入学定員充足を目標に、引き続き入学定員の適切な管理に努める。

⑥ 入学試験

改善すべき課題：“いつでも出願できるローリング・アドミッション方式は画期的である。Web 出願の導入も検討してみては。(アドバイザー・ボード, 2020 年度教育課程連携協議会議事録, 2021 年 2 月 18 日)”

自己点検・評価および改善計画

ローリング・アドミッションと 4 回の合格発表という方法での入試方式を継続している。忙しい社会人にとって受験しやすい環境を実現したと考えている。前年度同様 Web 出願に関して引き続き検討している。

⑦ 教育目的・3 ポリシー等

改善すべき課題：“教育目的、3 ポリシー等の文章が長いのもっと簡潔にしてもよいのではないか。(アドバイザー・ボード, 2020 年度教育課程連携協議会議事録, 2021 年 2 月 18 日)”

自己点検・評価および改善計画

2021 年度中に F D 等で検討し、現状に即して文言変更し簡潔にした。2022 年度より新しい教育目的・3 ポリシーを採用している。

⑧ 入学前教育

改善すべき課題：

“予備知識を備えるために入学前に読んでおくべきテキスト等の推薦があると、入学後の学習に際して感じる困難感を減じることができよいのではないか (2022 年度ホームカミングデー参加者意見より)”。“入学の 4 月以前に準備できることのメニューを明示してもらったほうがよいし、同じ院生によるガイダンスなどもあってもいいかもしれないと思った (2021 年度修了時アンケートより)”。

自己点検・評価および改善計画

2023 年度入学者から、帝京大学産業保健高度専門職養成の大学院プログラムの「疫学統計学入門」については入学前から視聴できるようにする。あるいは、既存のオンラインの講義等の推薦を行う。また、入学の 4 月以前に準備できることについて A4 2 枚程度の資料を事前に作成し配布する。あるいは、動画に録画して後日でも YouTube 視聴可とする。なお、課題研究のことを入学前に理解してもらうため、2021 年度入学者から、3 月の課題研究計画報告会に入学予定者は参加可能としている。

⑨ 大学院生室

改善すべき課題：“院生室は 24 時間使用可がよく、大学本棟内にあるとよい (2021 年度修了時アンケートより)”、“院生室がもう少し広いとよい。週末の利用のための手続きの簡略化が

望ましい（同上）”、“院生室をもっと充実させてほしい（同上）”。

自己点検・評価および改善計画

2022 年度から、大学院院生室の 24 時間開放が実現した。これを広報等で周知することとする。

⑩キャリア教育

改善すべき課題：“SPH は医療職以外の人も積極的に受け入れている一方、キャリア教育は、ほぼ医療職向けのものしかなく、非医療職の私には参考になるものがほぼなかった（2021 年度修了時アンケートより）”、“院生の平均年齢（30 代中頃）をふまえると、あまり若い人のキャリアセミナーは参考にならないと感じた（同上）”、“分野ごとの座談会形式でも良いかと思いました（同上）”。

自己点検・評価および改善計画

2022 年度から、キャリアセミナーの内容改善を検討し、参加し易い時間として夕方以降の時間を設定し、オンラインでのセミナーを行っている。教員よりその他の改善案として以下の案が出され、適宜実施予定である：引退した教員からの話をしてもらう；講演者の教育業績になるように講義時間に組み込む（研究者志向の講演者を想定）；キャリアセミナーの分野を広めに設定する；MPH（DrPH）を取得したことで別の道が開けてキャリアアップにつながった修了生などを招く。該当者については、新卒での就職のための知識等について、板橋キャンパスのキャリアサポートセンターの協力を乞う（これまで該当者なし）。

以上